

初登録から9年超の車両でコンディションチェックを受けるお客様へ

maniacsのコンディションチェックをご利用いただき、ありがとうございます。maniacsのコンディションチェックは、概ね法定12ヶ月点検に準じた点検内容で、一部項目を簡素化することでリーズナブルな料金でプロフェッショナルな点検をご提供するものです。

主に下記4つの点検を実施し、またmaniacsでこれまで多数のVW/Audiの車両を点検整備してきた経験、ノウハウを生かし、車種、年式、状態に応じた故障可能性の高い箇所を積極的に点検いたします。ご希望により点検結果のコンシェルジュサービスを行います。

●メカニック試乗

走行中の異音、振動、機関の調子等を総合的に確認し、異音や違和感があれば不具合の有無について確認します。パワーステアリング、サイドブレーキ等の主要装備、灯火類、警音器等の保安装備の動作も確認します。

●フォルトチェック

VW/Audi専用の診断機を用いてフォルトコード（故障診断）をチェックします。フォルトが記録されている場合は、その項目について確認します。

●エンジンルームのチェック

バッテリー電圧、エンジンオイル・冷却水・ブレーキフルード等の量と状態、主要な配管の漏れ等をチェックします。異常がある場合は詳細な確認を行います。

●リフトアップし下廻りのチェック

タイヤの空気圧、溝の残量、変摩耗、亀裂等の確認、サスペンションブッシュ、ドライブシャフトブーツ、ステアリングのタイロッドエンド等のゴム部品類の状態確認、グリス漏れの確認、マフラーハンガーの状態、オイル滲み、冷却水滲み、その他リフトアップしないと目視できない下回りの要所を一通り点検します。

免責事項：

1. 本サービスの点検項目は、専用の記録簿フォーマットに記載の内容です。なお、ブレーキパッドの残量点検はホイールを外さない状態での簡易的な確認となります。総合試運転は主に整備士の官能による点検です。
2. 本サービスの枠組みは法定12ヶ月点検を簡素化したものです。法定12ヶ月点検に定義された項目と内容に比較し、簡略化または省略されていることはあっても、それを越える点検を行う責任は負いません。当社の経験とノウハウを活かした追加の点検については、当社はその項目または内容に関する何らの義務も負いません。
3. 本サービスの実施によって、車両が内包する全ての不具合を発見できるとは限らず、また、当社が全ての不具合を発見すべき責任を負うものでもありません。本サービスは未来に発生するかもしれない故障を見通すことはできず、従って本サービスの実施後に車両が故障せずに走行することを約束するものではありません。
4. 車両に故障が発生している場合、当該故障の診断、修理等は、本サービスとは基本的に別の事案となります。本サービスで発見された故障についても、当該故障の原因要素、故障内容、波及範囲等が本サービスで全て明確になるわけではありません。当該故障の詳細な調査診断には別途費用が発生する場合があります。

5. 本サービスの点検における可否判断は、主に法定 12 ヶ月点検と同等の判断基準とし、それ以外について車両の経年に応じた順当な劣化は、点検時点で故障または不具合に至っていない限り原則として可とします。よって、本サービスの実施直後であっても、車両各部の経年劣化等による故障発生の可能性は排除されません。

初登録から 9 年超の車両の点検整備に関する解説：

現代の車両は初登録から約 10 年を経過する頃から各部の故障の可能性が高くなり、15 年を超えるとその可能性は顕著に高まります。故障の主な傾向としては、ゴム部品、プラスチック部品の材質が全般に劣化して脆くなり、ひび割れや折損が発生し易くなります。エンジンルーム内のホース、パイプ、パッキン、ジョイント、ステー、足周りのブッシュ、ブーツ等が該当し、内外装のプラスチックパネル等も該当します。また各種ポンプ、制御弁、モーターなどの可動部品、各種センサ類などの電子部品も、部品自体の耐用年数を超えて寿命に至るものが多くなります。車両の使用経歴によっては、エンジン本体、トランスミッション等の摩耗故障も発生します。

10 年を経過した車両は、次第にいつどこが故障してもおかしくない段階になってきますので、故障の発生する可能性のある箇所を点検で逐一指摘することは、現実的な意味をなさなくなります。なぜなら、もし指摘した場合には例えばエンジンルーム内の至るところ殆ど全てということになりかねないからです。それらに対して、闇雲に予防保全のメンテナンスを行うことは、存外に費用が嵩む一方で故障の心配を完全に払拭できるわけでもなく、合理的とは言えません。「点検や整備を万全に行えば、故障の発生を未然に防ぐことができ、いつでも安心して乗れる」という考え方は、新車から 10 年を過ぎると次第に現実性がなくなってくるということです。

では、実際にどのくらいの確率または頻度で故障が発生するのかと言えば、10 年で頻発し始める車両もある一方で、15 年でも故障なく乗れている車両も中にはあり、個々の車両で全く異なります。それを予測することは難しいです。よって実用車において 10 年を経過した車両に対する付き合い方は、実際の故障の発生状況や頻度、その際の修理費用等を勘案しつつ、様子を見ながらお使いいただくのが、当社のお勧めする考え方になります。当社のコンディションチェックにおきましても、車両の経年相応の劣化は必要以上に指摘せず、各部品もまだ何とか使えるような状態であれば、余計な費用を掛けず基本的にそのまま継続使用していただく方向で点検しています。

その結果、当社で点検整備した車両がその翌日に故障することも、当然に起こり得ます。「不意の故障は絶対に避けたい」とご希望されても 10 年超の車両に対して点検や整備でそれを満たすことは極めて困難です。稀に「maniacs で整備したからもう故障しないはずだ」「maniacs で点検すれば安心して乗れるはずだ（べきだ）」とのご期待を持たれるケースがありますが、工業製品としての耐用寿命を超越するご期待にはお応えすることができません。当社では、概ね 10 年以上の車両の点検においては現に故障している箇所の発見に努め、整備においてはその修理に主眼を置きます。予防保全は費用効果を考慮し要点を絞ります。可能な範囲で当面の過大なリスクを低減させ、できるだけ長く、願わくば快適に、使用継続していただけるように尽力いたします。

なお、趣味のお車、特別な愛着のあるお車に関しては、実用車と同じ尺度で測れない側面があり、費用が掛かってでも乗り続けたいというご希望もありますので、そうした整備は個別にご相談ください。